

しみんきょうどう 市民協働による生きもの調査 ちょうさ
な ごえちょうさ けっかほうこくしょ
「セミの鳴き声調査」結果報告書



まちだし
町田市

はじめに

町田市には、谷戸や川、田畑、公園、まちなど、さまざまな環境があり、その中で色々な生きものが暮らしています。

生きものには、さまざまな環境で生きることができる種類もいれば、一定の環境でしか生きることができない種類もあります。暮らしている生きものを見ることで、その環境を知ることができます。

町田市では、色々な生きものが暮らすことができる環境を守り続けるための取組を、市民のみなさんとともに進めていきます。その一環として、市内全域を対象に、「セミの鳴き声調査」をおこない、昨年同様今回も多くの「セミの鳴き声調査」サポーターの協力をいただきました。

日本全国に分布するセミは30種類以上といわれていますが、町田市では、アブラゼミ・ミンミンゼミ・ヒグラシ・ツクツクボウシ・クマゼミ・ニイニゼミの6種類がいてみられ、その鳴き声調査をおこないました。

調査には、昨年不在だった20歳代のサポーター3名の協力もいただき、9歳以下から70歳以上の全世代にサポーターとして参加いただきました。

サポーターそれぞれ、ニイニゼミをはじめとしたセミの鳴き声の聞きわけに苦労しながらも、「ヒグラシが夏の終わりではなく夏のはじめに鳴くことに驚いた」「ニイニゼミの自己観測史上最も早い初鳴き記録した」「七国山にかけての緑地帯はツクツクボウシが大量に生息していることを実感」など、それぞれ新しい気づきや発見を含め、4か月間の記録を報告いただいたことに心から感謝しています。

セミは、飼育の難しさなどから、自然の中での生活のようすについては、まだわからないことが多い昆虫ですが、アブラゼミやミンミンゼミは、幼虫のあいだの5年間、土の中で木の汁を吸って暮らすなど、卵から成虫までの一生を、樹木に頼って暮らしている代表的な昆虫です。

したがって、今後、都市化が進むことにより森林が少なくなったり、温暖化により樹木の種類や数が変わることなどの影響を受けやすい生きものといえます。

昨年と今回の調査結果が、今後どのように変化して行くのか見守るとともに、セミに関わらず、みなさんそれぞれの考えや興味のある生きものを通して、自然に語りかけ自然の変化を感じ取っていかれることを願っています。

もくじ 目次

1、調査の目的	1
2、調査の概要	1
1) 調査対象	
2) 調査期間	
3) 調査範囲	
4) 調査協力者	
5) 調査方法	
3、調査シート集約結果	2
1) サポーター211名の構成	
2) サポーター調査区域	
4、セミの分布マップ	3
5、セミの鳴き声カレンダー	5
6、2014年と2015年の調査結果比較	7
7、その他	9
1) セミごとの声が聞こえた日数	
2) 天候状況について	
8、まとめ	10
9、サポーターからよせられた調査情報（抜粋）	10
10、アンケート結果（抜粋）	13

1、調査の目的

市民の生きものへの興味・関心を高めること、地域における生物多様性保全活動を担う人材の発掘・育成につなげること、町田市の生きもののデータを収集し経年変化を観察することを目的とする。

2、調査の概要

1) 調査対象

身近な生きもので、子どもから大人まで親しみやすく、住んでいる環境の影響を受けやすい昆虫である「セミ」を対象に、市内にいとみられる、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシ、クマゼミ、ニイニイゼミの6種類を調査した。

					
アブラゼミ なごえ 鳴き声 ジリジリジリ	ミンミンゼミ なごえ 鳴き声 ミンミンミンミー	ヒグラシ なごえ 鳴き声 カナカナ	ツクツクボウシ なごえ 鳴き声 ツクツクホーシ	クマゼミ なごえ 鳴き声 シャンシャンシャン	ニイニイゼミ なごえ 鳴き声 チー

2) 調査期間

2015年7月1日（水）～10月31日（土）

3) 調査範囲

町田市内全域

4) 調査協力者

町田市内在住・在勤・在学の小学生以上の、「セミの鳴き声調査」サポーター（以下「サポーター」と記す。）211名

5) 調査方法

（1）サポーターは、自宅または通勤先・通学先周辺などの調査場所、セミの鳴き声を聞いたら、その種類ごとに、聞いた日に○をつけセミの鳴き声調査事務局に調査シートを提出

※記入例：7月記録シート

7月記録シート		① アブラゼミ	② ミンミンゼミ	③ ヒグラシ	④ ツクツクボウシ	⑤ クマゼミ	⑥ ニイニイゼミ
7/1	水						○
7/2	木	○					○
7/3	金						
7/4	土			○			
7/5	日	○	○				○
7/6	月	○	○				○

(2) 提出された「調査シート」を記録・集計し以下のとおりまとめた。

①セミの分布マップ

サポーターが鳴き声を聞いた場所を、町田市のマップに記録・集計し、セミの生息範囲を把握した。

②セミの鳴き声カレンダー

サポーターが鳴き声を聞いた日を、カレンダーに記録・集計し、セミの鳴き始めから鳴き終わりの期間及び、その確認日数を把握した。

③2014年と2015年の調査結果比較

④その他（セミごとの声が聞こえた日数・天候状況）

3、調査シート集約結果

1) サポーター211名の構成

※ご家族・グループで参加の場合は代表者とする

性別	男性122名、女性89名			
住まい	町田市内209名、不明2名			
年齢	9歳以下39名	10代18名	20代3名	30代16名
	40代19名	50代21名	60代50名	70歳以上45名

2) サポーター調査区域

町田市内を基準地域メッシュ*1で102の区域（メッシュ）に分け、サポーターが調査した場所をメッシュ上に表すと、74のメッシュを調査したことがわかる。

*1 基準地域メッシュ：国勢調査などの統計をとるために国が定めた方眼の一つで、約1kmの方眼

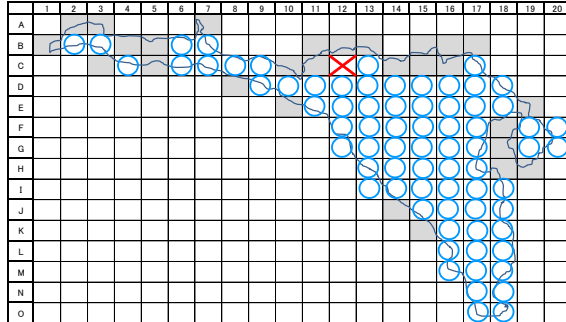
凡例 赤文字＝メッシュ番号（1～102） ○調査メッシュ

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
A		1	2				3													
B	4	5	6	7	8	9	10				11	12	13		14	15	16			
C			17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			
D								32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42		
E										43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	
F											53	54	55	56	57	58	59	60	61	
G											62	63	64	65	66	67	68	69	70	
H												71	72	73	74	75	76	77		
I												78	79	80	81	82	83			
J													84	85	86	87	88			
K														89	90	91	92			
L															93	94	95			
M															96	97	98			
N																99	100			
O																101	102			

4、セミの分布マップ

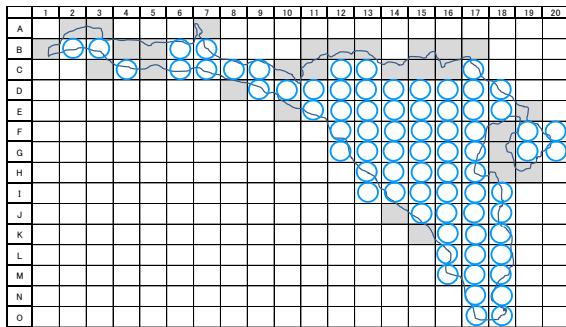
凡例：
 ○ = 確認メッシュ (調査の結果セミの鳴き声が報告されたメッシュ)
 × = 未確認メッシュ (調査の結果セミの鳴き声の報告がなかったメッシュ)
 ■ = 未調査メッシュ

1) アブラゼミ



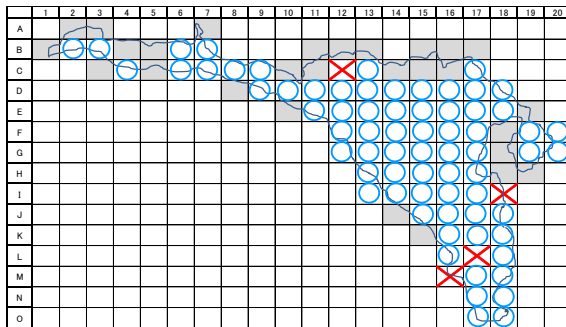
● 調査メッシュ 74 のうち 73 メッシュで鳴き声が確認されている。

2) ミンミンゼミ



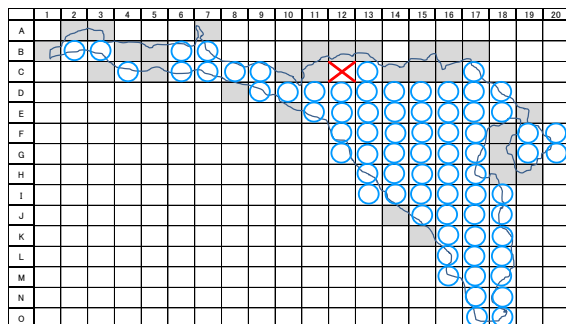
● 調査メッシュ 74 全てにおいて鳴き声が確認されている。

3) ヒグラシ



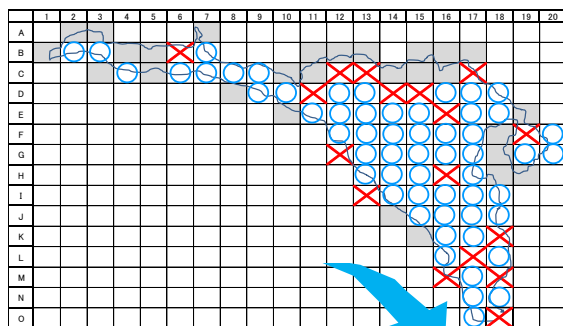
● 調査メッシュ 74 のうち 70 メッシュで鳴き声が確認されている。

4) ツクツクボウシ

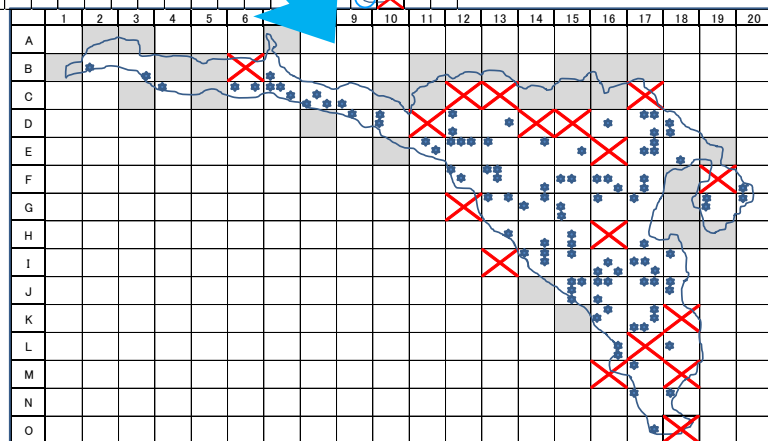


● 調査メッシュ 74 のうち 73 メッシュで鳴き声が確認されている。

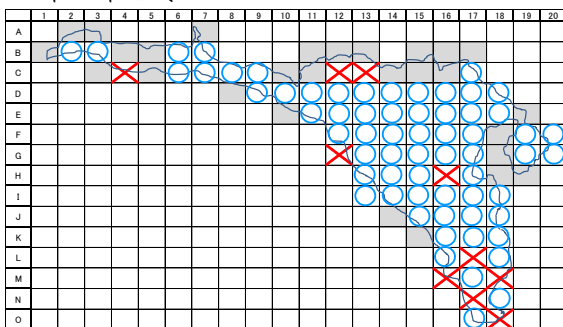
5) クマゼミ



● 調査メッシュ 74 のうち 57 メッシュで鳴き声が確認されている。
鳴き声を聞いたサポーターの調査場所（自宅か勤務先）をメッシュ上に記号●で表すと、特にかたよりがないことがわかる。



6) ニイニゼミ



● 調査メッシュ 74 のうち 64 メッシュで鳴き声が確認されている。

7) 考察

6種類のセミの鳴き声が市内全域にわたって聞かれている。

クマゼミの鳴き声が確認されたメッシュを、細かく9分割し鳴き声を聞いたサポーター116名それぞれの調査場所（自宅か勤務先）を、メッシュ地図上で確認しても、かたよりはなく、市内全域に分布していると考えられる。

サポーター (211)	ちょうさ 調査メッシュ (74)		みちようさ ■未調査 メッシュ	ごうけい 合計
	かくにん ○確認メッシュ	みかくにん ×未確認メッシュ		
①アブラゼミ	73	1	28	102
②ミンミンゼミ	74	0	28	102
③ヒグラシ	70	4	28	102
④ツクツクボウシ	73	1	28	102
⑤クマゼミ	57	17	28	102
⑥ニイニゼミ	64	10	28	102

5、セミの鳴き声カレンダー

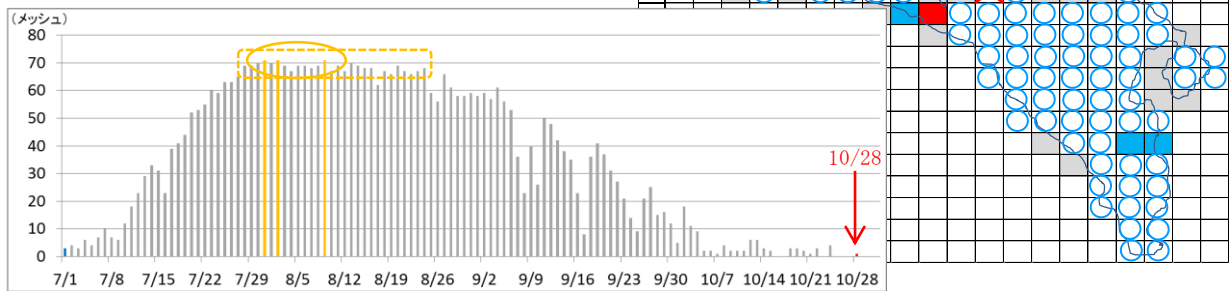
凡例) ■ = 鳴き始めが一番早いメッシュ ■ = 鳴き終わりが一番遅いメッシュ

○ = ピーク (鳴き声が確認されたメッシュの数が一番多い日)

 = ピーク期間 (アブラゼミ、ミンミンゼミともに、ピークの71メッシュ～69メッシュを含む期間)

1) アブラゼミ

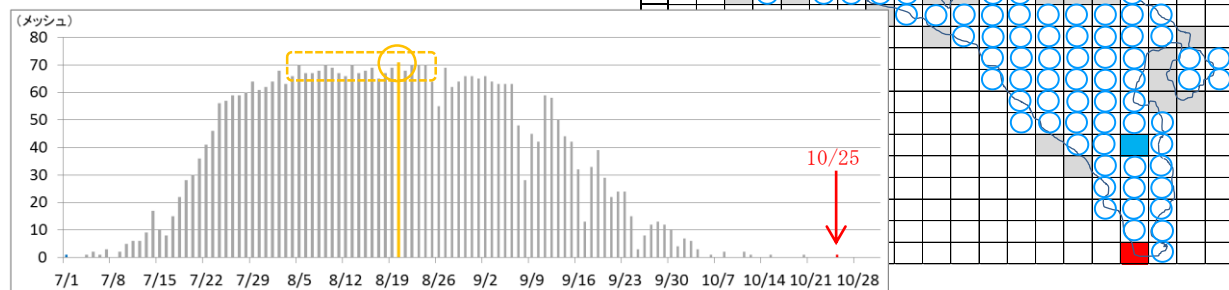
[確認メッシュ数グラフ]



●7/1の調査開始から10/28まで鳴いており、ピークは7/30と8/2、8/9の3日間だった。7/28にはピーク期間に達し、8/24までその状態が続いていた。

2) ミンミンゼミ

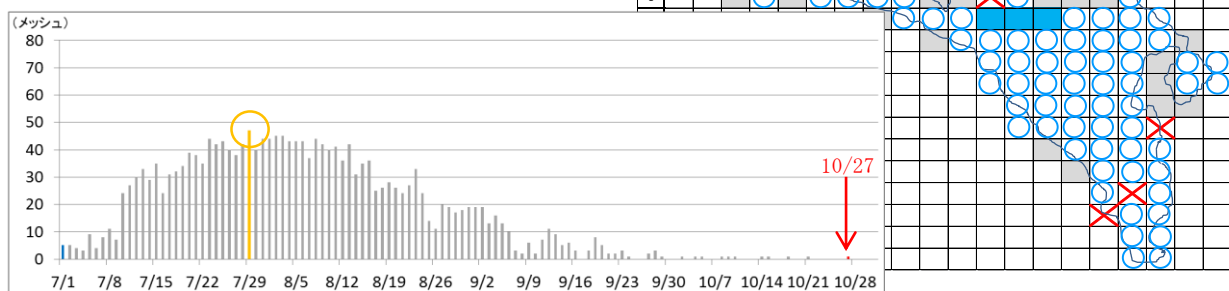
[確認メッシュ数グラフ]



●7/1の調査開始から10/25まで鳴いており、ピークは8/20だった。8/5にはピーク期間に達し、8/24までその状態が続いていた。

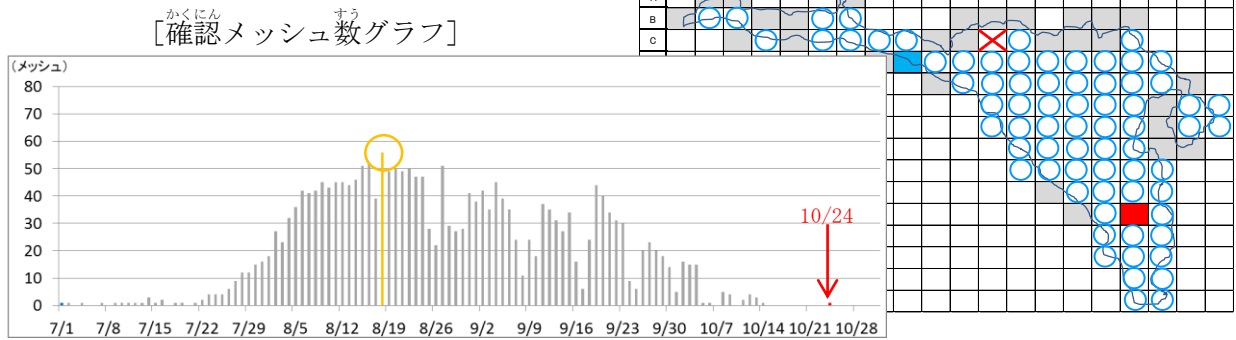
3) ヒグラシ

[確認メッシュ数グラフ]



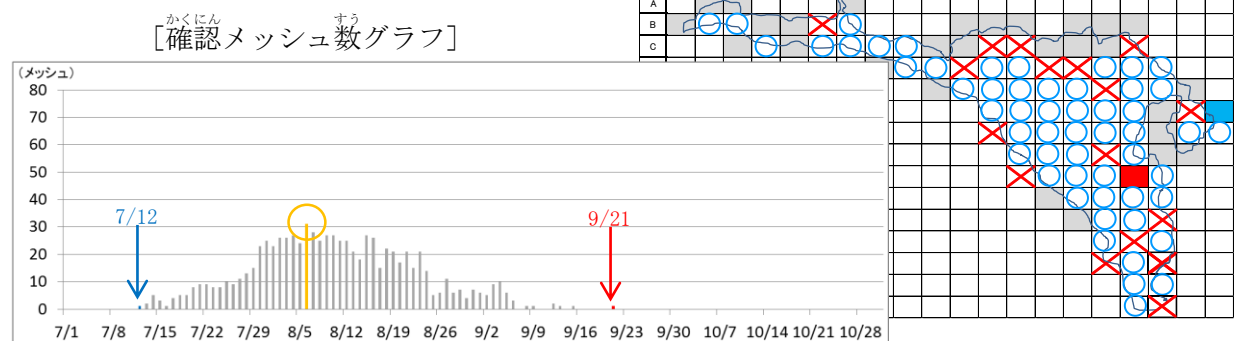
●7/1の調査開始から10/27まで鳴いており、ピークは7/28だった。

4) ツクツクボウシ



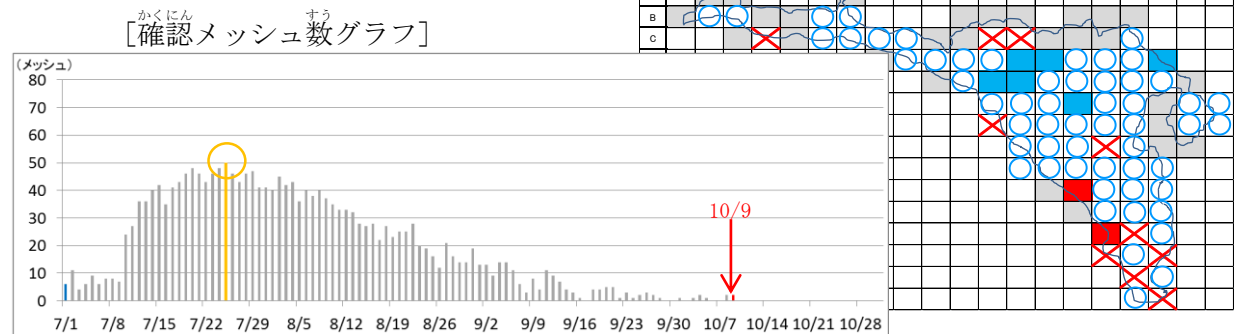
●7/1 の調査開始から 10/24 まで鳴いており、ピークは 8/18 だった。

5) クマゼミ



●7/12 に一番遅く鳴き始め、9/21 に一番早く鳴き終わり、ピークは 8/6 だった。

6) ニイニゼミ



●7/1 の調査開始から 10/9 まで鳴いており、ピークは 7/25 で一番早かった。

7) 考察

6 種類のセミの活動時期は、ピークや鳴き始めでくらべると「ニイニゼミとヒグラシ」が早く、次いで「アブラゼミ、ミンミンゼミ、クマゼミ」、最後に「ツクツクボウシ」で一般的な傾向と同じであった。

7/1 の調査開始から、「クマゼミ」以外のセミは鳴き始めていたメッシュがある。

関東の梅雨明け（7/10頃）直後から、「アブラゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ、ニイニゼミ」の確認数が急に増加したことや、「クマゼミ」の初鳴きを確認するなど梅雨明け前後の状況が把握できた。 ※梅雨明けデータ出典：気象庁ホームページ各種データ

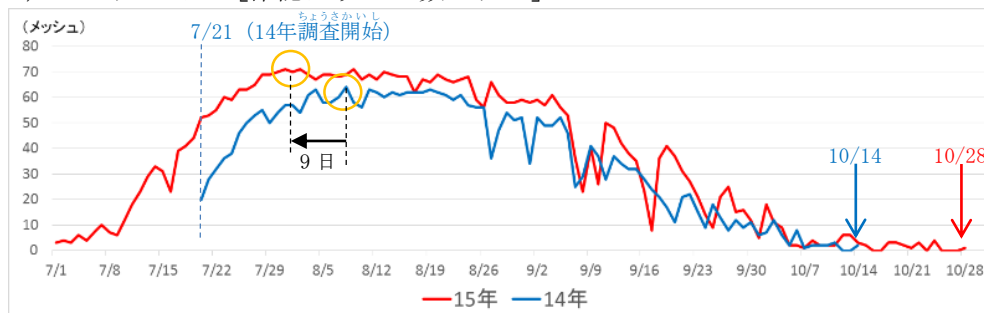
6、2014 年と 2015 年の調査結果比較

1) セミの鳴き声カレンダー比較 (2014 年は 14 年、2015 年は 15 年と表す)

※調査開始日と調査メッシュ数がちがうため、14 年に対し 15 年は、調査開始が 21 日早く、確認メッシュ数 (グラフの高さ) が 7 ポイント高くなっています。

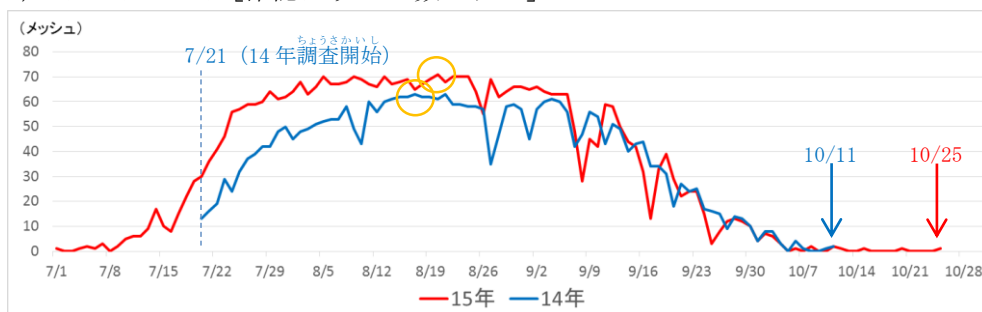
凡例) ○ = ピーク (鳴き声が一番多く確認された日)

(1) アブラゼミ [確認メッシュ数グラフ]



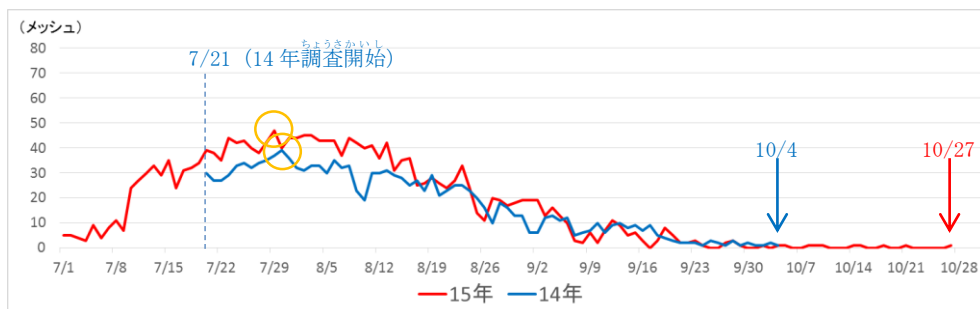
●14 年に対し、15 年のピークは 9 日早く、鳴き終わりは 14 日遅くなっている。

(2) ミンミンゼミ [確認メッシュ数グラフ]



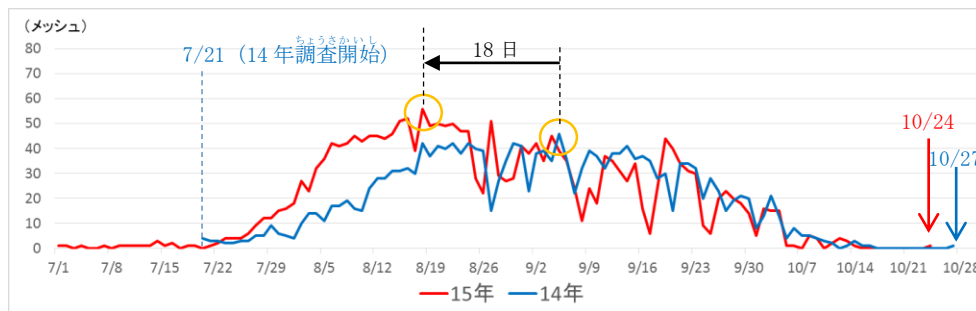
●14 年に対し、15 年のピークはほとんど同じで、鳴き終わりは 14 日遅くなっている。

(3) ヒグラシ [確認メッシュ数グラフ]



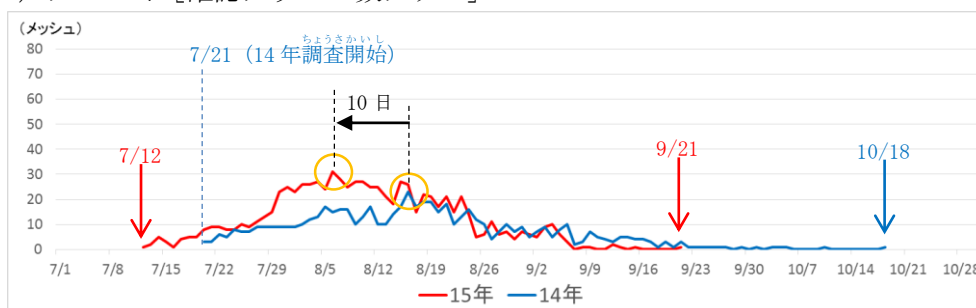
●14 年に対し、15 年のピークはほとんど同じで、鳴き終わりは 23 日遅くなっている。

(4) ツクツクボウシ [確認メッシュ数グラフ]



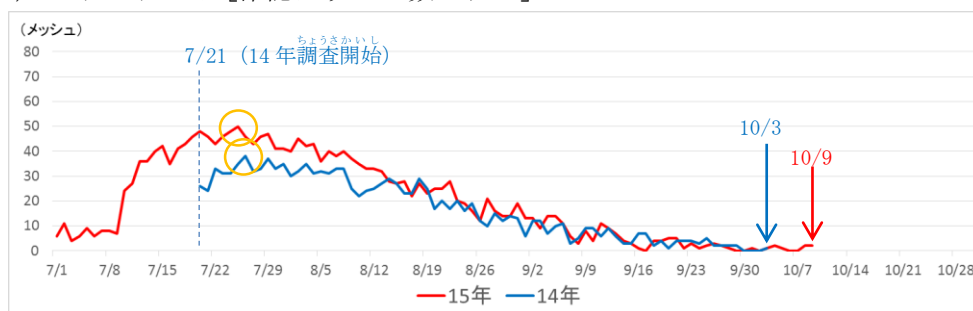
●14年に対し、15年のピークは18日早く、鳴き終わりはほとんど同じになっている。

(5) クマゼミ [確認メッシュ数グラフ]



●14年に対し、15年のピークは10日早く、鳴き終わりは27日早くなっている。

(6) ニイニゼミ [確認メッシュ数グラフ]



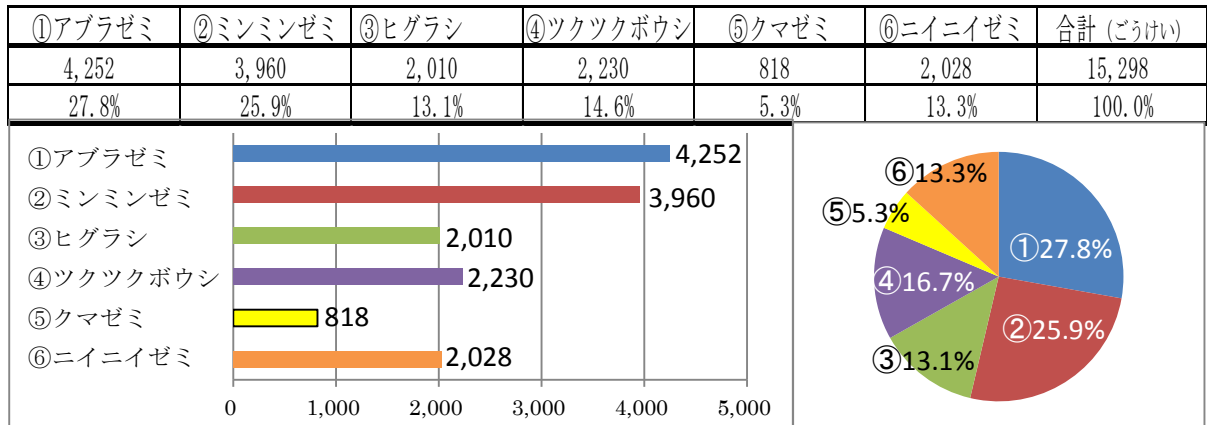
●14年に対し、15年のピークはほとんど同じで、鳴き終わりは6日遅くなっている。

(7) 考察

14年に対し、15年は全体的に活動のピークは、ほぼ同じか早くなっており、特に「ツクツクボウシ」のピークが18日早く特徴的な結果となっている。その要因としては梅雨明けが平年より早く、7/11～8/19の猛暑日を含む連日の真夏日が影響し活発化したと考えられるが断定はできない。したがって今後も継続的な比較調査が必要と考える。

7、その他

1) セミごとの声が聞こえた日数



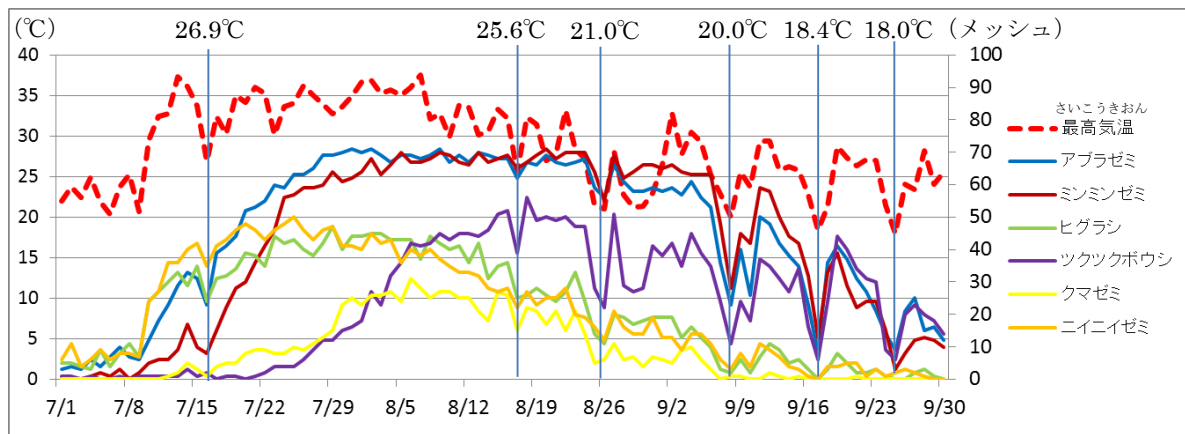
●セミごとにひとつのメッシュで声が聞こえた日を1とし、その日数を集計するとアブラゼミが一番多く、クマゼミが一番少ない結果となり、その差は3,434日だった。

※上記の結果はセミの個体数を示すものではありません。

(2013年度に市の南部でぬけがらの数を調べたところ、アブラゼミはミンミンゼミの約10倍見付かりました)

2) 天候状況について

最高気温とセミの確認メッシュ数との関連(7月1日～9月30日)



※最高気温出典：気象庁ホームページ・アメダス八王子気象観測所2015年データ

●サポーターから天候が悪いとセミの鳴き声(確認メッシュ数)が聞こえないとの情報が寄せられたとおり、グラフの最高気温が極端に下がった日はセミの鳴き声も極端に下がっていることがわかった。

最高気温の変動とセミの鳴き声の増減は、関連性が高いことが考えられる。

8、まとめ

セミの分布マップにおいて、鳴き声の確認日数には大きく差があるものの、6種類のセミの鳴き声が市内全域にわたって聞かれており、メッシュごとに目立った違いはなかった。未調査のメッシュにおいても同じ傾向であると考えられる。

環境省が行った2001年の自然環境保全調査*2において、クマゼミの生息域北限に近いといわれていた町田市において、2014年と同様2015年も広範囲でクマゼミが確認されたことは興味深く、今後は市内で生まれ育っているセミかどうか断定する証拠として、ぬけがら調査の検討も必要と考える。

セミの鳴き声カレンダーにおいて、6種類のセミの活動期間（鳴き始め～鳴き終わり）が把握でき、その時期も「ニイニゼミとヒグラシ」が早く、ついで「アブラゼミ、クマゼミ、ミンミンゼミ」、最後に「ツクツクボウシ」の順番で活動しており、一般的な傾向と同じであることがあらためて確認できた。ただし、2014年に対し2015年は全体的に、ピークが早まり、鳴き終わりが遅くなっており、一時的な傾向かどうか継続して調査が必要と考える。

*2自然環境保全基礎調査

日本における自然環境の現状及び改変状況を把握し、自然環境保全の施策を推進するための基礎資料を整備するために、環境省が5年ごとに実施している調査。

9、サポーターから寄せられた調査情報（調査シートのメモ原文を引用し、抜粋・要約）

※以下、文頭の数字は、メッシュ番号を表す

- ・6：ニイニゼミは6/25に初めて聞いた。クマゼミは数がすくないが、一週間ほど続けて鳴いた。昨年は一日だけだったはず。
- ・10：アブラゼミとミンミンゼミは全般的に夏の始めから、ほぼずっと鳴いていた。ヒグラシは早朝や夕暮れの涼しいころ鳴いていた。ツクツクボウシは8月のお盆過ぎから鳴き始めた。クマゼミは猛暑の盛りに鳴いていた。ニイニゼミの鳴き声の判断がしにくかったので記録できなかったが、もしかしたら夏の初めの暑い日の昼間だったような気がする。
- ・20：例年、休日夕刻にはヒグラシの鳴き声を確認していましたが、今年はあまり確認できませんでした。本来この地域にいるはずのないクマゼミの鳴き声の確認され、やはり年々の高温化によるものでしょうか。
- ・22：上旬は雨が続いた。特に7日～10日。台風の影響で大雨であった。とうとうクマゼミの鳴き声を聞くことができなかった。『シャンシャンシャンシャン～』残念！！
- ・33：アブラゼミ・・・昼が多かった、ミンミンゼミ・・・昼が多かった ツクツクボウシ・・・朝が多かった ニイニゼミ・・・昼が多かった。
- ・37：6月中旬頃からニイニゼミは朝から晩までずっと鳴いている。8/14初？クマゼミ？シェイシェイと鳴いている。

- ・41：野津田陸上競技場で行事があり、参加しました。晴れまにツクツクボウシがたくさん鳴いていました。今年は秋が早かったせいでしょうか。9月後半からパタリとセミの鳴き声を聞かなくなりました。調査区域には国士館の森があるのですが、鳴き出しも早かったですが、終わりの早かったようで、本当にパタリと鳴かなくなりました。
- ・42：ミンミンゼミが、初めて庭や近くでよく鳴いていた。林の中を通った際、カナカナというヒグラシの斉唱、続いてジ、ジ、ジというアブラゼミとの重唱が聞こえた。涼しげに林の中に響いていたヒグラシの鳴き声はすばらしかった！
- ・45：ニイニゼミの初鳴きは6月27日夕方。観察史上最も早い初鳴記録でした。6/28下小山田でも初鳴きを確認。7/20アブラゼミの初鳴きを聞く。7/23午前中ミンミンゼミ初鳴。下小山田にて。7/30夕刻小山田桜台でツクツクボウシの初鳴。8/7朝クマゼミの初鳴。小山田桜台にて。
- ・46：聞き分けが難しい（複数種鳴いているとき）と思いましたが、段々とわかるようになりました。7/31はじめて「ケケケケ・・・」を聞き、ヒグラシが鳴き始めたと思いました。子どもとセミの声に耳をすますのは楽しい思い出となります。ぬけがらあつめをしました。何のぬけがらか調べてみたいと思います。脱皮する前の虫も見つけました。
- ・51：ヒグラシを聞いた日が少なく、残念です。ニイニゼミは、耳鳴りのようでもあり、アブラゼミと混同しているようでもあり、確実に聞いていたか、自信がありません。昨年シーアイハイツでクマゼミの声を聞きました。暑い夏でしたから、自宅周辺で聞けるかと期待しましたが、残念乍ら耳にしませんでした。関西で聞いていたあの声を思い出します。
- ・54：夏の初めより、「ヒグラシ」が鳴いていることに驚きました。「夏の終わりの淋しさ」の象徴と思い込んでいましたので。それが収穫でした。
- ・55：アブラゼミとニイニゼミの声の判断が難しかったです。ヒグラシは早くから鳴いていて、ミンミンゼミとツクツクボウシは8月まで自宅周辺では聞こえなかった。クマゼミはいまだに聞こえないです。8月に入ってからクマゼミ以外は雨の日でも鳴いていた。
- ・56：親子で調査しました。興味深かったです。だんだん鳴き声が少なくなってきた寂しさを感じました。
- ・58：調査は、朝夕がほとんどです。クマゼミの存在をはっきりと感じました。ぬけがらは発見できませんでした。
- ・65：私の調査範囲（65）に接する（64）木曾山崎図書館、町田山崎郵便局前の一本の喬木（樹名不明）で、雨中クマゼミと思われる鳴き声がしていた。他に鳴いているセミは一匹もいず、10分近く立ち止まって聞いていたが、自分が記憶しているクマゼミの鳴き声より、やや間のびした感があったので、若干の疑問が残った。ただし、今回調査対象の他の5種でないことは確かである。
- ・69：9月の台風18号の時、雨が小雨になると鳴いていました。凄いなあと感じました。

た。9月25日、急に涼しくなりまったく鳴き声が・・。10月は2日と3日以降は聞けず淋しい気持ちになり季節の移り変わりを感じました。8月20日鶴川二中近くで聞いた「セミ時雨」が一番心に残りました。又来年ですね。

- ・75: 6/26 (金) にアブラゼミの声あり。晴天に出してしまったのか? (初) 同27日 (土) ニイニゼミの声あり。(初) ~これから6月末、7月下旬は近隣どこかでアブラ、ミンミン、ニイニゼミの3種はかならず鳴いているはず。7/12 (日) 以降は木立のあるところ、必ず鳴いている。
- ・82: 雨や天候の悪い日は、あまりセミの鳴き声が聞こえなかった。セミをつかまえて暗い箱にいれると鳴き止む。セミの羽と頭の間に軽く触ると「ピタッ」と動きが止まる。
- ・85: ミンミンゼミは4:40頃から鳴いていたと思ったら、8/19は2:10に鳴いていました。ジリジリ、ジジ、ジジリなどと鳴き、なかなかジューッと鳴き出さないものもいます。ニイニゼミの鳴き声がわかるようになりました。この調査のおかげです。ありがとうございました。(アブラゼミと一緒に鳴いたらもうわかりませんが。) とうとう念願のニイニゼミの抜け殻を見つけました。見たことはあるのですが、自分では初めてです。ミンミンゼミのミーンの前のミンミンの声、4,5回数えることができました。長いのは初回だけなので、なかなかタイミングよくいかないのです。
- ・86: クマゼミはせりがや公園ではよく聞くことができたが、自宅周辺ではほとんど鳴いていなかった。ニイニゼミは、アブラゼミとミンミンゼミの声で判別するのが難しく、鳴いているかどうかは聞き取りにくかった。暑い日は、元氣よく鳴くが、雨の日は鳴かず、涼しい日は弱弱しく鳴いていた。
- ・90: 日中あまりにも暑いと、セミも鳴かないようです。朝や夕方の方がよく聞きます。8月上旬の連日の暑い日は夜中までセミが鳴いて。8月下旬少し涼しくなった日には昼間あまり鳴かず、夕方気温が上がってくると鳴き始めました。
- ・91: 去年までは、ツクツクボウシの声を聞きましたが、今年は聞いていません。私の調査場所が成瀬駅前だけで狭かったので、公園まで行けばもっといろいろな種類が聞けた様に思います。毎年家のベランダに沢山アブラゼミの残がいがあるのですが、今年はとても少なかったです。
- ・97: セミの声が少なくなったと感じる。セミの数がへっているのだろうか。今年は特に、ヒグラシをまったく聞かなかったのが淋しい。西から移ってきたクマゼミも、今年は去年と比べて少なかった。来年からはどうなるのだろうか。
- ・101: 今回の調査場所は自宅だったので、鶴間公園は調査範囲外でしたが、セミの鳴き声が多かったので、注意してみたら、地面から出た時の穴などかなりたくさん見ることが出来ました。鶴間公園は最近少なくなっている地面が「土」の(芝やアスファルト等ではない)公園なので、これだけのセミが生息するのかと改めて思いました。そう思うと、他の生き物も鶴間公園には多く生息するのではないかと興味を持ちました。

10、アンケート結果 [抜粋版]

1) 回答者数とその構成 () 内数字はサポーター数

(1) 回答者数：151名 (211)：回答率72%

(2) 構成 ※ご家族・グループで回答の場合は代表者とした

性別	男性86名 (122)、女性65名 (89)		
年齢	9歳以下28名 (39)	10代9名 (18)	20代3名 (3)
	30代13名 (16)	40代18名 (19)	50代14名 (21)
	60代35名 (50)	70歳以上31名 (45)	

2) 質問項目ごとの回答結果 (具体的コメントは割愛しています)

(1) この活動をどこで知ったか。(複数回答可)

①広報まちだ (6月1日号)：66名

②町内会・自治会回覧を見て：52名

③町田市役所ホームページ：5名

④一般財団法人 まちだエコライフ推進公社ホームページ：16名

⑤知り合いから紹介された：20名

⑥PRチラシをもらって：22名

(2) 今回の調査活動に対し期待していたものはあるか。(択一)

①特になかった：72名

②あった：74名

(3) この調査活動で、改善すべき項目があるか。(複数回答可)

①調査期間：42名 ※指摘項目以外のコメント 3件を含む

②マニュアル：11名 ※指摘項目以外のコメント 6件を含む

③調査シート：21名 ※指摘項目以外のコメント 3件を含む

④調査の方法：20名 ※指摘項目以外のコメント 4件を含む

⑤その他：27名 ※指摘項目以外のコメント 5件を含む

(4) 生きもの調査に今後参加したいと思うか。(択一)

①参加したい：98名

②今回の調査時期 (夏休みを含む) であれば参加したい：33名

③参加したくない：7名

(5) 昨年度、町田市の「セミの鳴き声調査」に参加したか。

①した：34名

②していない 109名

(6) 今後、どのような活動に参加したいか。(複数回答可)

①セミの鳴き声以外の生きもの調査：71名

②自然環境・生物多様性に関する講座：33名

③自然観察会：75名

④生きものや自然を守る活動：54名

⑤その他：15名

⑥どのような活動にも参加したくない：3名

(7) この活動を通して、自分や家族の方が町田市の自然に関心を深めたり生きものの大切さに目を向けたりするきっかけとなったか。(択一)

①なった：124名

②ならなかった：3名

③どちらとも思わない：15名

3) アンケートで記載いただいた意見・感想(記載自由)：57名

※以下、原文を引用し、抜粋・要約

- (1) 町田市が開催予定している、生きものや自然に関わる活動をしている方々が交流できる場「(仮称) 町田市生物多様性フォーラムの開催」について
- ・町田は谷戸などが住宅地になったところが多いので、意外に四季おりおりに昔からの草花が見受けられる。そういうものを観察し、大事にしていきたいもの。
 - ・子どももわかりやすく楽しめるものなら参加してみたい。体験学習等良いですね！
 - ・子ども達に参加を呼びかけると将来の自然保護活動につながるのでは・・・？高齢者にも健康のために呼びかけてみるのもよい様に思います。
 - ・エコネット町田、グリーン・ウォーク会、真光寺川をきれいにする会、鶴見川源流保存会など紹介いたします。
 - ・テーマ別講演会、研修会(生活密着の環境・自然観察などに集中)
 - ・防犯上仕方ないのかもしれないが、道路端の立木をすぐに切ってしまったら、下草を刈り込んでしまったり、など、そこで生命をいとなんでいる昆虫類や鳥類のことも考えてほしい。一部を刈らず、または時期をずらすとかして少しでも虫達が生きられる環境を残す努力を！境川・恩田川の生きものについて。又、参加したくとも南地区に住んでいるとリサイクルセンターや忠生地区まで行くのが大変なのです。バスの乗り継ぎも悪く、フォーラムなどの開催はせめて市・中央の市役所までにしてほしい。
 - ・是非、定期的な開催をお願いしたいです。また、多様な年齢層の方が集まるといいですね。
 - ・他ではなかなか見られないが、町田市では見られる貴重な草花、虫の紹介など教えてもらったりし、自分の周りでも珍しいものがあれば観察し、報告しあい、町田市の環境を守っていききたい。
 - ・植物についての講座があれば参加したい。
 - ・自然観察会。恩田川に関する事等。
 - ・谷戸や里山の自然に関する活動があれば参加したい。特に西山中谷戸は自然が残っており、興味あり。

- ・集会には参加したくありません。今年はセミの数が少なく、セミ好きの私としては淋しい限りでした。
- ・子どもも分かるコーナーや展示があるとよい。
- ・子ども（幼稚園児もしくは小学生以上）が聞いても分かるような内容。発表の仕方、等。
- ・親子で参加できるもの。
- ・子どもでも楽しいもの
- ・スライドや図鑑を多用してもらとうれしい。
- ・自宅の近くであれば参加したい。
- ・いいですね！期待しています。野生動物との共生、付き合い方、傷ついた野生動物を見つけたらなど、どうでしょうか。
- ・交流の場を持つことはとても大切なことだと思います。そして、できるだけ交流の輪を広げ、長続きするようになるためには、同好の人々や狭い趣味的な範囲に留まることを避ける必要があります。年齢や性別を超え、他の地域との連携、比較、交流もできたらいいと思います。ホームページを使って、日本全国、世界へも発信することで町田市内の関心も高まること期待されます。大変お世話になりましたありがとうございます。
- ・町田が昔、今、未来とどのように変化すると予想されるか、等。
- ・時間の都合がつけばぜひ参加したい。
- ・参加者の交流会が持てると良いと思います。
- ・ホームで生活している高齢者の皆様は昔の町田をよく覚えていて、楽しい会話がたくさんありました。今後は自然をテーマに、地域の子どもたちとの交流、（今昔物語など）ができたらと考えます。
- ・昔から町田にいる生きものを守る（町田にしかない生ものがいるか？わかりませんが）身近な生きものがさりげなくみんなの役に立っているなどのことを地域の子供たちに教えたりする。
- ・若い人と老人入りまじり合っとかかわっていただけたいと思います。地域の人の支えにつながると良いのですが。介護が地域に参加できるようつながりになればと思います。

（２）セミの鳴き声調査に関する内容について

- ・今年、自宅の庭の木で40匹ほど羽化しました。
- ・家族で時々セミについて話す事がありました。虫ぎらいの娘も自転車での下校時に鳴いていたセミのことを話してきます。
- ・蝉が鳴いている、から何々蝉が鳴いている・・・の意識になりました。羽化も感動的でした。ありがとうございました。
- ・お盆以降は気温も下がりセミも盛り上がり欠けてしまいましたが、家ではセミの羽化を子どもに見せることができたり、楽しめました。

- ・付近の山中に畑をもっており、時間がある限り農作業などを楽しんでいます。自然に親しむ機会に恵まれ、自然の大切さを感じています。10月は天候のせい、あるいは台風のせいでまったく鳴き声が聞こえませんでした。
- ・子どもがセミの鳴き声を区別できるようになりました。羽化も観察したり、図鑑を熱心に読んだりしていました。そこから影響したのか虫を怖がらなくなりました。ありがとうございました。
- ・今回セミの鳴き声がわかり、鳴き声の広告がカラーでセミごとに分別されているのが良かった。勉強になりました。
- ・セミが多く鳴いている時期に種類の聞き分けがむずかしい。
- ・せみのぬけがらはなんでニイニゼミだけ小さいのかなと思いました。ぼくはほかのせみでも小さいんだけどぬけがらはなんでまめぐらいなんだろうとおもいました。あとニイニゼミだけなきごえが小さいのがわかりました。
- ・調査したのは娘です。虫が大好きで、夏の間はセミをつかまえて家の中で放し飼いにしています。この調査を本当によろこんでいて、毎日楽しく行いました。又来年も参加したいと思います。ありがとうございました。
- ・何気ない散策が周囲に対して気配りする様になりました。併せて小鳥たちの自然界での生き様も見ることができ、非常に有意義な朝昼晩の寸時でした。朝の天気良・否、温度変化も面白いグラフが出来、一年間朝の日の出具合での変化も。
- ・昨年一度おこなったとき、楽しかったし、セミはこの辺でいつ鳴いているのかが勉強になって楽しかったです。
- ・セミの調査は是非長く続け、環境保護に役立ててください。市の催しは、町田駅周辺が多く、出かけるのが大変です。町田西部にもフォーラムができるようなホール（または会議室）を備えた公共図書館があればよいのにといつも思います。
- ・楽しかったです。集計した結果も楽しみです。